



# 雄飛

校訓

考える人 心豊かな人 たくましい人

霧島市立国分南中学校

学校便り 2月2号

令和8年2月27日発行

## 自ら運命の扉を開け ～言い訳のない生き方～

校長 平國弘明(ひらくに こうめい)

令和8年度公立入試が3月4日から始まる。24日には最終出願倍率が発表になった。倍率は、全県で0.76(R7年度は0.80)倍、始良学区で0.81倍、鹿児島学区でも0.97倍とこれまでで最も低い水準となっている。ただ、倍率に一喜一憂してもしかたがない。油断することなく、一つ一つのことに丁寧に取り組もう。試験も丁寧に解き、解答の見直しを行い、読み間違えられるようなまぎらわしい字になっていないか、消しゴムで消した際に、必要な文字が消えていないなども細かくチェックしよう。「うっかりミスだ。わかっていたのに。」と気づいても後の祭りである。

さて、右の写真の俳優をご存じだろうか。シリアスな役から、コミカルな役まで幅広く演じられ、映画、テレビドラマ、CM、ラジオなど様々なメディアで活躍されている滝藤賢一さんである。個人的には、数年前の柔軟剤のCMが気に入っていて、何度見ても、彼の変幻自在ぶりにどうしても笑ってしまう。



【アルファ・エイジェンシーHPより】

この滝藤さん、小学校の頃から映画にはまり、高校を卒業する頃には、なんとなくではあるが映画の世界で活躍したいと考えるようになり、高校卒業後は映画演出を学ぶ専門学校に入学。19歳の時ある映画のオーディションに受かり、撮影に参加するも、芝居に難しさを痛感し、本格的に演技を学ぶ決意をする。5日間の筆記及び実技試験に臨み、約200倍の

難関を突破して、超ベテラン俳優である仲代達矢さんの主催する「無名塾」の一員となる。ここで、有頂天になった滝藤さん。そこにすかさず、仲代さんから、無名塾に入ったからといって成功するわけではないと厳しい言葉を突きつけられる。仲代さんの直接指導は週2回程度。その度に徹底的にダメ出しの連続。それでも、看取り稽古などを重ね芝居を学んでいく。2年目からは、地方公演に同行し、舞台にも立てるようになるものの、演劇の世界の厳しさを益々感じつつ、弱音と反骨精神のせめぎ合いの日々だったようである。そんな中、入塾5年間からは無名塾の舞台出演をあえて断り、自分で見つけた小劇場の舞台に出演するようになる。一方で、現実の生活は困難を窮め、やがて心がすさんでいく。他人の芝居に文句を言ったり、売れない理由を周りのせいだと愚痴ったり、すべての責任を自分以外に向けるようになってしまう。本人も腐れ切っていたと当時を振り返るほどである。

そんなとき、知人の勧めでカウンセリングを受ける。それまでの不満をすべて吐き出した。ここで、カウンセラーの方が一言、「周りの環境とあなたが売れないことは、何か関係があるのですか?」と。「全く関係ない。むしろ無名塾に守られているじゃないか。」ということに気づく。それ以後は、台本に「逃げない、言い訳しない」と必ず記し、自分自身を戒める日々となる。それでも苦労は続いた。このまま日本には何も変わらないと渡米を決め、資金を貯めるなどの準備を始めた矢先、原田真人監督のオーディションの話が飛び込んできた。実は、1年前に原田監督のワークショップに参加し、彼の作品に「絶対に出たい」という強い気持ちをもち続けていたのである。無我夢中でそのオーディションに食らいついた。「神沢」という重要な役どころを掴んだ。これまでの苦労が少し報われた瞬間である。映画のタイトルは「クライマーズ・ハイ」。無名塾に入り、10年目を迎えていた。そして、その映画での演技が認められ、その後は次々に、大河ドラマや連ドラへの出演を果たし、俳優としての地位を確立していくことになる。

滝藤さんはこうおっしゃっている。「自ら動いたことで運が開け、俳優の神様に見つけて頂いた。」「若い時に積んだ苦労や努力は必ず報われる時が来る。」「すべての経験が成長の糧になる。」と。

参考 月刊致知2023年11号 致知出版社HP

## 2年職業講話実施 2/14

14日(土)の2, 3校時に、2年生で職業講話当日は、お仕事の忙しい合間

を縫って、霧島市倫理法人会から8業種の起業家や経営者の皆様がのべ20名あまり来校された。生徒は、希望を元に、グループごとに2年生の各教室4つに分かれて、それぞれ4業種の講話を聞いた。今の仕事を選ばれた理由ややりがい、大変なこと、失敗談、中学生の頃の職業や進路に対する思いなどを画像や動画などを交え、各クラスを渡りながら20分間ずつ10分間の休憩をはさみ、90分間にわたって、お話をいただいた。最後には、中学生に対するメッセージも添えていただいた。一方、生徒たちもメモを取りながら真剣に聞いていた。その聞く態度や姿勢については、「大変素晴らしかった」と高く評価していただいた。2年生には、今回の講話を、ただ聞いて終わらせることなく、今後の進路決定や職業の選択の際にぜひ参考にしてもらいたい。霧島市倫理会の皆様、大変お世話になりました。



話をいただいた。最後には、中学生に対するメッセージも添えていただいた。一方、生徒たちもメモを取りながら真剣に聞いていた。その聞く態度や姿勢については、「大変素晴らしかった」と高く評価していただいた。2年生には、今回の講話を、ただ聞いて終わらせることなく、今後の進路決定や職業の選択の際にぜひ参考にしてもらいたい。霧島市倫理会の皆様、大変お世話になりました。

## 霧島市教育委員会主催 「霧島しごと維新」～10年後の自分探し～

2月21日(土)にシビックセンター会議室にて、霧島市教育委員会主催「霧島しごと維新～10年後の自分探し～」が、10の企業種による企業説明会・職業講話が行われた。この催しは、「地元で働く方々から話を聞くことを通して、今後のキャリアを意識し、夢や希望をもち主体的な進路選択への意欲を高めること」を目的として開催されている。当日は、市内の中学生及び小学校6年生、38名が参加。本校からは2年生の3名が参加。それぞれが3つのブースを移動して各企業の説明や働く目的や、働くことを通して得られるものなどについての話を、真剣に聞き、熱心に質問し、対話していた。特に、質疑応答は充実したも



のとなり、質問の質も高く、係の方もうなずきながらその様子を観ていらっしやった。3人とも広くそして、深い学びができたのではないかと思う。この経験を自らの職業選択や人生観の構築に生かすとともに、学校において、他の生徒

と共有する機会があれば、さらにいいと感じた。

## 音楽と笑顔と元気な声で選手を後押し 第73回県下一周駅伝応援 24. 25日

今年も21日から県下一周駅伝が行われ、県内各地を各地区代表の選手たちが駆け抜けた。大会は地元、始良地区の連覇で幕を閉じた。本校はこの駅伝大会に、長年にわたって関わっている。大会4日目のスタートは、本校正門前。これは、県内学校で唯一、しかも吹奏楽部の演奏がスタートに華を添える。多くの駅伝関係者、来賓、保護者、報道関係者が集まり、いつもとはまったく違う風景。吹奏楽部の音色が心地よく、早春の暖かな空気とともに周辺を包み込んでいる。9:00 中重真一霧島市長の号砲を合図に、先導の白バイ、選手、サポート車両等が南中を一齐に飛び出していく。あっという間に選手は見えなくなった。関係の方々から大会への協力に対し、多くの感謝の言葉をいただいた。実に誇らしかった。翌日25日、駅伝最終日は、根占町を出発。タスキが8区の選手に福山で繋がれ、南中横の大隅線跡の県道472号線を12時30分過ぎに駆け抜けていった。沿道に並んだ生徒たちが、一齐に手を振り、大きな声と笑顔で選手を後押しした。わずかな時間ではあったが、選手にこの思いはきっと伝わったであろう。貴重な機会を得られたこと、関係の方々に感謝申し上げたい。

